

2005年 8月8日、福岡発、上海経由でウルムチ着

8月9日、ウルムチ

8月10日、ホータン着。19日まで調査

8月20日、ウルムチ

8月21日、ウルムチ発、福岡着

【ウジュマ・マザール】ロプ県の山麓のアチック村にある、中心から70キロ離れている。ホータンから3時間、ウジュマとは桑の意味。仏教徒の軍との戦いのとき、イスラムの将軍、イマームが逃げこみ、桑の木に隠してくれと頼んで、木の中に入った、服の部分ができていたので、のこぎりで木を切られ、イスラムの将軍も死んでしまった、このような伝説がある。多くの人が今でもお参りに来る。途中でロプ県の公安の許可をとる。増水による事故で多くの参拝客が亡くなった。この年の5月21日に、新疆ウイグル自治区・ロプ（洛浦）県・ユルンカシュ（玉龍喀什）鎮からアチク（阿其克）管理区に向かうバスが、ユルンカシュ河で山からの土石流に巻き込まれて、14人が死亡。そのあと道路が寸断されているため許可が必要だった。途中、湖が見える、大躍進の時つくった湖、農業用水として使用される。4-5箇所で橋が流され、仮の木造橋がかけられている。川中を迂回し、そろりと車だけを通して進んだ。

このマザールには農閑期の7月など2000人—3000人が訪れる。3箇所を回る巡礼などバスで訪れ、増える一方である。平安、病気、収穫を祈る。イスラムの将軍ズクリヤがまつられている、この山の後ろに彼の兄弟ヤヒヤ、ズクリヤの息子のマザールがある。今は桑はない。アラーに近い人がここに祀られている。カシュガル、ヤルカンド、アクス、ウルムチからも参詣にくる。ホータンのイマームアシム、イマームシカズーム、そしてここという、三社参りのようなものがある。トルファンにもマザールが多い。森のような場所はズフー（伝統的な医療をする、願いを込めた布があり、座って祈る）という。イマームムサカズームの伝説が本当かどうかはわからない。モスクは1969年から、4回修理。1000年のポプラの樹がある。月曜日に始まるバザール。火曜日と金曜日にはない。多くの人が来るため大きな鍋がある。マザールに来ると、娯楽、スポーツ、バザールができる。精神的な病を治す社のようなところがある。この村は7戸、70人。

【教育言語は漢語】大学では中国語で教育せよとの政府の指示、法律ではないが強制力はある。若い教師はそれなりの適応力はあるが、高齢の教師は困っている。漢語の試験、HSKのレベルを合格する必要がある。中国人もこれを受ける。学生は漢語からウイグル

語の翻訳をするため、塾に通う。進学のための塾もある。漢語化への適応であろうが、それなりの財力を持たない層はそのようなことはできない。大学を卒業しても就職は難しい。ウイグル医学の個人病院など自営業を始めたり、郷政府などの公務員になるウイグル人が多い。いわゆる一般企業への就職は難しい。ホータンでは特にそうであろう。日本の国立大学に10年ちかく留学してもその能力を発揮する場がない。旅行ガイドするだけの人もいる。新疆に外語大と体育大がほしい。ウイグル人はボクシングでオリンピック代表になっている。

数学、物理は漢語ですが、わからない部分はウイグル語で説明する。漢語の件は、規則というよりも、政府からの通達でそのようにしたほうがよいというものである。共産党委員会の文書は、法律よりも強く、強制力がある。会議で漢語でしたほうがよいということになり、自分の力をアピールするためにそのようにする先生も多い。ウイグル語が生活語だけになる危険性がある。たとえばモンゴルは文化がない、文字がない。独自の宗教がない。そのようにならないために、ウイグル文化を掘り起こす。

漢語の普及がインフルエンザだとすると、われわれはウイグル語の免疫をつくる。漢語の最高の8級ぐらいは合格できる。ミンカオハンは今自分のこどもを民族学校にやっている。ウイグル語ができないウイグル人は尊敬されない、仕事とお金のためだけに漢語を修得していると思われる。

**【葬式】**今日は母が亡くなって40日目、羊をつぶして、ナズルを今朝した。母は72歳、糖尿病で亡くなった。病院から家に移した。親戚の医者がいたが、亡くなる直前に病院にいる必要はないといていた。呼吸がない、手足が動かない、口から泡が出る、長男をはじめ、皆が泣く、それで死んだこととなる。死亡証明書はない。夜3時に亡くなって、翌日2時に、ジャマアート（知人、友人含めて1000人）があつまる、なるべく早くしたほうがよい。子供が集まるのに時間がかかる場合は遅れる。モスクに運ぶ前に遺体を洗う専門の人がいる、お金がない人は払う必要がない。男は男、女は女が洗う。ユグチと呼ばれる職業の名前。女の人もモスクへ運ぶ。水がないところに墓をつくる。畑でないところ。年取った鳥はふるさとに帰るようにふるさとの墓に必ず運ぶ。自分の墓はリンチンタン・マザール、ここから2キロぐらいの所にある。アホンの役割は最後のナマズ、遺体を墓に入れることである。75歳だと計算して、1000元くらい、貧しい人に寄付して、天国に行く。左右にペリシタ（天使）がいる、善行を書き込む、悪行意したいたら、3日間まつ、後悔して、悔い改めなければ、悪行として書き込む。ゼンネット（天国）は8段階、ドザ

ック（地獄）は7段階ある。あまりにも悪いことをした人のナマズにはジャマアートが集まらない。不満がある人のところにはいかない。メイトナマズ（葬式—遺体への祈り）。いい人には棺おけを担ぐ人がたくさん集まる、担ぐには最低4人は必要。葬式の時にはお金、ものなどはあげない。そのあとチャイによばれて、モノやお金をあげる。来た人にはポロなどを出す。1000回の葬式に行ったら、自分の葬式のときに1000人来る。多少のトラブルがあっても葬式には行く。だれでも葬式のときのお金を用意、ためておく。人によって費用は違う。3000元位が平均か。貧しい人やアホンに払う、そばにいる人が遺体の口に水をたらず、イマンという、遺体に対する尊敬である。遺体にキパン（白い布）を巻く。口が開かないようにケパンで縛る。これから5回ナジルをする、クイマックを遺族の家に持っていく、残りを貧しいひとあげる。

**【ウイグル医学】** この医院は10年前に建てた。医学学校はいつていない、16歳から見習いをしていて、今55歳。八十袋屋は薬屋だけでなく、調味料もかねている。見習いは、見ているだけ、患者の話を書く、先生のしていることを見る、今は30人の見習いがいる。医者 の 証明書は学校からもらって、実習をここでしている。自分は独学で試験に合格。2000年以上のウイグル医学の歴史、ウイグル医学の指導者はホータン生まれが多い、薬の原料はパキスタン、インド、イランなどから来る。ウイグル医学はイスラム医学とは違う、5世紀ころから独自に発展してきた。イブンシーナは有名で、中央アジアの人、生まれも明確でない。ウイグル医学は近代でも政治と関係なく発展してきた、近年は発展が速い。ウイグルにもひるがいる。1キロ200元、血液を活発にする、月経不順によい。漢方と似たところはある。薬は効用が違う。カン、血、サプラ多かったら気が短い、がんになりやすい、ベルガンが多かったらよく眠る。それらは眼に見える、肺からでる、白いものである。サルダが多かったらあわてることが多い。カンが多かったら血液の病気、脳溢血など。見る、聞く、匂い、触るこの4つで診断。50のベッドがある、1ヶ月—1年半の入院が多い。食事は家族が作る。

**【教育】** この学校は1990年開校。受験で有名、1800人の生徒、内地新疆高中班に38人受験し—20人（幹部2人、農民18人）の生徒が北京、上海の学校に行った。内地新疆高中班が始まって、5年になった、少数民族地域を対象に、1500人を選抜。貧しい農民を対象に、内地の都会で無料で勉強。3から5万元の授業料を無料、農民が優先される。1年間は中国語の習得、あとは中国人と一緒に勉強。全国で12箇所の大学の附属高校に行く。これにどれだけいくかで中学のランクがきまる。今年、ロプ県で40人が21の学校か

ら行った。来年は本校から 30 人の合格の予定。2000 年は 1 人も行かなかった。試験の事情がわからなかった。今まで 58 人行った。進学する大学はトップ 10 の大学、北京大学など。いまではホータン地区の模範学校になった。局長などが視察に来た。成功の秘訣は、①、教師、生徒に民族としての発展を教え込んだ。②、親との懇談、学校に行かなくてよいという親も多い。③、子供のために教育する、日本を含めた先進国は教育を重要している、戦争に負けても復興した。生徒は土日も学校に来て勉強し、スポーツをしている。5 時におきて勉強、漢語のレベルも高い。だが 1800 人のうち 11 人の父親が学校に行かなくてよいと考えている。内高班は北京だけで今年は 8 人、大連、青島、南京などにも行った。この学校の広さは 73 モー、絨毯作り、温室野菜栽培などのクラスもある、エリートのクラスのほかに、レベルに応じて、120 人の女子の絨毯のクラス、中卒だけで就職 95%、刺繍などもする。男は野菜と絨毯のクラス。全校で 45% が男子。寮も教科書も無料。郷政府の補助がある。高校も無料である。地方によって違う。漢語は週に 5 時間。3 年生は 8 時間。98 年から。効果はあがっている。漢語がわからないと就職もできない。生活に困らないほど 7 割が話せる。ウイグル語の時間、8 時間。学校の財政はよくない。絨毯の工場が古い、パソコンがない、実験の材料がない。いま、300 万元で学校の増築している。食堂などもつくる。子供のために自分を犠牲にしてよいというスローガンが学校に掲げてある。

**【予備校】** 名前はインテル (がんばる)。数学、文学、英語、理科などを教える。日本語は学生も先生もいない。150 人の学生。大学生の補習や大学卒の就職試験のため、内高班の受験勉強。できてから 1 年。ウイグル語で授業。授業料は安い。45 分が 2 元。ホータン市内の知識人が教師をする。1 時間で 100 元の賃金。他にクルサ (英語のコース)。インギサハール (新しい夜明け)、アンカー (大きな鳥の名前)、ウルップ (希望)、ウルタシュ (要石) などの校名の予備校がある。英語を教えるのが多い、市内全部で 1000 人、大学の先生をしながらこれを始めた。これは社会の要請である。中国語ができて数学ができないとだめ、大学を卒業するのは簡単、大学は暗記ばかりで、就職試験の応用ができない。そのためこのような予備校が必要になる。総合理科もある。ホータン市内でも石鹼会社、果物、シャンプーの会社があり、就職試験が必要。就職浪人になる人も多い。ホータン師範大学の 70% が卒業のとき就職、できなかった人はさらに勉強して就職率は 85% になる。外国人には見せたくないところ。

**【骨の専門病院】** 社会変化のため皆、気が短くなって、交通事故が多い。新疆医科大学卒、

ウルムチ人民病院の骨折科の部長を経てふるさとで開業。農民の骨は強い、テレビばかり見ている人、頭だけを使う人も骨が弱い。ストレスがない人、体を使う人は、骨折してもすぐ直る。生活がよくなると骨が弱い。肥満が増えている、運動が少ない、食べすぎが原因。衛生学校卒業の新米のドクターが8人、見習い6人、看護婦7人、見習い3年間する。理論より、実際が重要である。骨折、骨の病気、手術もする、腰痛なども治療。ウイグル医学は将来性がある、骨折の技術もある。手術しないで直すこともある、1日50人の患者、ウイグル医学では卵の白身を使って、骨折部に塗って、木で固定する。腎臓の薬を与えると精神が安定し、血圧もよくなって、早く直る。腎臓が骨を支配する。骨によい食べ物は胡桃だが皮をとらないと気が短くなる。安全教育、食べ物、運動などの教育が必要。骨の手術は短期的によい。ウルムチでは2000元だが、腰の治療など、ここでは安くできる。

【マシュラップ】マシュラップについて、シャーマニズム、仏教、イスラムのそれぞれの時代に続いてきたが、違いはある。ピリ・マシュラップのピリはバクシ、ダーハンと似ている。ダップという楽器を使う。音楽、歌、ダンス、冗談、男女が互いに歌う。日常生活、祭り、建築祝い、結婚などにする、葬式ではしない。歌は互いに笑う歌、イスラムが来た後は禁止され、変化した。

- 1、ホータンのマシュラップ
  - 2、地域による違い
  - 3、種類
- (1) 古典的マシュラップ
- ①、結婚式のマシュラップ：現在見ることができる。
  - ②、ジュワントイのマシュラップ：現在見ることができない
  - ③、家の新築、家族のマシュラップ：現在見ることができる
  - ④、家の新築完成、親戚のマシュラップ：現在見ることができる
  - ⑤、庭バグのマシュラップ：現在見ることができる
  - ⑥、サラハットマーのマシュラップ、ノルズのようなもの：現在見ることができな、ノルズとしてのこっている。
  - ⑦、クズラグ、メロンを味わう、野外でのマシュラップ：現在見ることができない
  - ⑧、セイリ・マシュラップ、マザールでの遊び、旅行者のマシュラップ：現在見ることができる
  - ⑨、ハマン・のマシュラップ、種まき、綿花の。金持ちが昔、広大な綿花畑を持っている

た、誰かが、綿花の皮をとれないと、楽隊を呼んでマシュラップをした。：現在見ることができない

⑩、カールック・マシュラップ、初雪のとき、名と時間を書いた紙を別の家においておく、その人を捕まえることができれば、その人がマシュラップをする。できなければ、捕まえようとした人がする：現在見ることができる。

⑪、オーグラックターティシュ・マシュラップ、馬に乗る：現在見ることができる

(2) ターグ・マシュラップ、山地、牧畜民、ランル、カシュテシューホータン県、チラ県—チャカ、ウルサイ、ノル、ボスタン、ニヤーアッチャン。85、11山村、楽器も簡単、歌もフォークソング。

①ダラ・マシュラップ、野外

②トイ・マシュラップ、結婚式、山の人

③ウイ・マシュラップ、家の中

④イグニティシュ・マシュラップ、糸をつむぐスピグがこわれた、服を作ってあげる、そのためのマシュラップ、

(3)、ピリ・マシュラップ—ダップだけ—シャーマニズムとイスラムの混合。

(4)、キャラン・マシュラップ

皮山、ピリヤン、バシユランガ村、コシユタン村、他のところと違う。

すべての楽器が使われる、ドタールなど、ムカム、ドラン・マシュラップのような、有名な歌が使われる。昔の作者ナワイなどがつくった。

4、マシュラップの規則、習慣

残っているマシュラップ、①、楽しいためのマシュラップ、②、ジュワントイのマシュラップ、③、ピリ・マシュラップ—病気の治療

5、使う道具：コッチラワーブ

6、有名な芸術家：マシュラップのための曲を書いた。

7、歴史

8、未来：存続するが、変化する、なくなったのもある。サラハットマーは農民がアラ—に豊作を願うものであった、今農民は農業技術を発展させ、肥料なども使う、それで必要がなくなった。マシュラップはトルファン、コムル、アクスでも見られる、近代的になっている。カザックにもあるが違っていると思う。キルギスもあるがドンブラのように1種類の楽器で、ウイグルのようにたくさんの楽器を使うことはしない。新しいマシュラップ

が発生している。学校の友達、友人、家族、会社の友人などが集まって、マシュラップをする。新疆大学、1 クラス、40 人、卒業生は新疆全土に広がっている。仕事を退職して、年に一回どこかに集まる、今年はアクスとか、カシュガルに集まって、マシュラップをする。同窓会（アラムガ）、同じ役所に勤めていた。

ホータンではカルーンという古い楽器がない。板に弦を張ってある、誰も弾けない。バラマンは3人ひける、サター、ドタールの大きいもの、ホータンのマシュラップは他の地方と違い、先にあげた楽器の種類が多い、また、古い宗教、仏教、シャーマニズムなどを含んでいる、トルファン、クムルなどは古い、イリなどは新しい、楽器、30人の男、9人の女、ホータンではそれはない。イギットベシもホータンではない、ホータンではミーマンベシ、ゲストの意味、カディはホータンではドーガ、だれかがミスをしたらその人がたたく。①、モラースマシュラップ、ジュワントイなどのトイのあとのミーティング、②、サラハートマのような宗教的マシュラップ、ピリ・マシュラップ、③、セイラマシュラップ、プーコクマルムのようなところいってする旅行者のマシュラップ、④、生産者のマシュラップ、収穫や家の建築の後など、⑤、季節のマシュラップ、雪が降った、春の始まりなど、⑥、スポーツ練習のマシュラップ、馬に乗る、

ピリ・マシュラップー遊びと病気の治療の2つの側面、ナイフで手を切った、足の骨を折ったなどの病気は病院にいったほうがよいといわれる。しかし、悪い夢を見て、身体が麻痺したとか、声が出なくなった、夜に出歩いて、何か騒がしい怖いものに出会った、そのあとに病気になった、野外で寝ていて具合が悪くなった、そのような時、ピリを組織する。精神的な病のとき、ダップをたたく、回る、病人はピリ・フォンの後を付いてぐるぐる回る。シェイタン（悪魔）、ジン（悪霊）、グイ（悪霊）などは火を恐れるから、必ず火がたかれる。ロープの意味は、シャーマニズムでは神を信じ、空は神に属している、大地は人間に属している。地下はシェイタン、人、動物などに属す。

ウグズ・ハンは本に書いている、枝を使い、2頭の羊をささげる、枝はアラーと人間を結ぶ、羊をアラーにささげる、火のそばでそれを焼く、煙が出て、よいにおいがする、煙は空に昇る、空にはアラーがいる、神とはアラーのこと、イスラムが来てから、シャーマニズムなどは禁止された、外ではできないので室内でするようになった、枝に変わり、天井から吊り下げたロープを使うようになった。歌も言葉もイスラムによって代わった。ジンーアラワステともいう、アラーは火からできた、人（アダム）は土からできた、アラーがはじめてつくった。シェイタンはアラーの近くにいた、それで人々はシェイタンに祈り

をささげた、アラーはなぜ祈るのかと怒り、土地を取り上げた、シェイタンは人を見ることができ、人はシェイタンを見ることができない、シェイタンは神秘的な王である。アラーは最初に人を作り、次に穀物、果物などを作った、3番目は家畜である。

ジンには人には見えないが、ジンは人が見える。ジンは水車小屋、汚いところ、水路などに住む、夜にそのようなところに行くと、ジンが取り付いて、病気になる。ピリは犠牲に羊をジンにささげ、病気をなおす。貧しい人は鶏の場合もある。金持ちは牛をささげる。①、ピリ・フォンはジンを呼び出す、ジンを集め、歌を詠む、②、ダップをたたく、③はダンシング、ぐるぐる回る。病人も回る。汗をかいて、よく寝たら直る。ジンと人々、神はイスラムの規則で動いている、ピリがジンを扱う活動はシャーマニズムである。この2種が混じっている。日本でも同じような現象がある。